

平成29年産「アルプス米」コシヒカリ栽培こよみ(JA米)

品質向上は天候に左右されない「土づくり」から

高品質なアルプス米につなげる6つのポイント

- 土づくりの徹底
- 適期に適正な防除で被害を防止
- 初期茎数の確保
- 水管理の徹底
- 溝掘りと田植え後1か月からの中干し
- 適期収穫

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

収量構成の目安 (540kg/10a)

収 量 構 成	目 安
㎡当たり穂数(本)	400
1 穂 着 粒 数(粒)	70
㎡当たり着粒数(粒)	28,000
登 熟 歩 合(%)	87
玄 米 千 粒 重(g)	22.5

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

青

ス

テ

ン

作業日程の目安

5/15 田植え

4/14 浸種

4/25 播種

4/28 搬出

5/15 田植え

5/15 田植

6/8-10 除害剤散布

6/8-10 軽い田干し

6/15-20 溝掘り

6/15-20 中干し

6/21-24 加里散布

7月上旬 一斉草刈り

7/23 穂肥①

7/30 穂肥②

8/5 防除

8/5 出穂

9/4-6 防除①

9/11 防除②

9/4-6 落水

9/11 刈取り

土づくり

草刈り

1回目 (田植期)

2回目

3回目 県下一斉

4回目

5回目 ①又は②

5回目 ②

水管理

水管理の目安

①生育初期の浅水管理

②中干しは遅れず

③中干し後の間断かん水

④幼穂形成期後の飽水管理

⑤登熟期間の水管理

・出穂後20日間の湛水管理

・収穫5〜7日前までの間断かん水

きめ細かな水管理 ~初期茎数の確保~

溝掘り・中干し ~適期に遅れず~

間断かん水 ~酸素と水分の供給~

飽水管理 ~急激な葉色低下を防ぐ~

出穂後20日間の湛水管理 ~穂体の活力維持~

間断かん水 ~品質の向上~

やや深水 浅水管理 (3cm程度)

時々水を入れ替える

溝掘り

中干し

間断かん水

飽水管理 (常時湛水状態を保つ)

湛水管理 (出穂後20日間は田面を出さない)

こまめに入水する

収穫5〜7日前まで間断かん水 (田面の足跡に水が残る程度)

【飽水管理の方法】
3cm程度入水後→自然減水→入水 (出穂始め頃まで繰り返す)

【飽水管理の効果】
①根が常に水分吸収可能な状況を維持することで急激な葉色低下を防ぐ
②肥料持ちを良好にする

管理のポイント

土づくり

●秋施用ができなかった場合は、土づくり資材を

●確実に施用する。

●代かきは、均平に努め、練りすぎに注意する。

●ゆつくりと耕起し、作土深を15cm以上確保する。

●田植え時期に応じた計画的な育苗を行う。

●田植え後は、浅水管理をする。

●植付深さは3cm。

●植付本数は株当たり3〜4本。

●栽植密度は原則坪当たり70株を確保。

●育苗密度は原則坪当たり70株を確保。

●基肥は基準量を確保。

●溝掘りは確実に

●5mに1本を目安に溝を掘る。

●中干しは適期に開始

●強すぎる中干しに注意する。

●田植え1か月後頃を目安に開始する。

●中干し後は幼穂形成期まで間断かん水を行う。

●6/20頃にエスアイ加里くたまたは珪酸加里を施用する。

●適正な穂肥

●幼穂形成期から飽水管理。

●草刈りを終える。

●7月上旬までに畦畔や雑草地の

●必ず幼穂長1.5cmを

●確認してから!

●1回目穂肥は、

●葉色が淡い場合は、出穂前に追加穂肥を施用する。

●2回目穂肥は1回目穂肥から1週間後を目安に施用する。

●1回目穂肥は葉色と幼穂長1.5cmを確認してから施用する。

●出穂後20日間の湛水管理

●生育ステージに合わせて防除を実施する。

●フェーン時はあらかじめ入水する。

●刈取り予定日の5〜7日前まで間断かん水を行う。

●適期収穫

●高温年は80%から

●粗糲化率85〜90%頃に刈り取る。

●適正な乾燥調製

●19mmのふるいの目を使用し、選別を徹底する。

●水分14.5〜15.0%に仕上げる。

●土づくり

●稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。

●珪酸質資材や堆肥を施用する。

刈取時期判定の目安
籾の熟色で刈取適期を判定
株内の平均的な穂をみる
(粗糲化率85〜90%)
青緑色の2次枝穂が黄化した時

品質向上は土づくりから

稲体のケイ酸量が増加
品質が向上

●病害虫の被害を軽減
●気象変動に強いイネ

【ケイ酸資材の施用】

資 材 名	標準施用量 (kg/10a)
粒状ケイカル	200
元 氣	100
シリカロマン	100
シンキョーライトP	100

4月25日中心とした播種

○5月15日を中心としたコシヒカリの田植えに合わせ、播種日は4月25日を中心として下さい。

○育苗日数は20日間を目安とし、老化苗の発生を防止して下さい。

浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/8頃	4/18頃	5/10	8/3頃
4/16頃	4/25頃	5/15	8/5頃
4/22頃	4/30頃	5/20	8/8頃

育苗日数が20日程度でも、苗の生育量は十分に確保できる!

栽植密度は原則 70株/坪 の確保

溝掘りと田植え後1か月からの中干し

○中干しが不十分な場合、弱勢分げつが多く発生したり、根が少なくなり品質低下しますので田植えの1か月後を目安に、遅れないよう中干しを開始して下さい。

○中干し開始前には、ほ場全体へ入排水を短時間で均一に行うため、溝を設置して下さい。

適正な中干し

・葉が直立

・茎が太い

・根が多い

中干し未実施

・下葉が枯れる

・茎が細い

・根が少ない

中干しの有無による稲の姿

乗用管理機での溝掘り

適期で適正な防除で被害を防止!!

■病害虫防除体系

【育苗基本防除】・苗箱施薬剤は、規定の薬量(50g/箱)を厳守し、箱全体に均一に散布しましょう。

薬 剤 名	散布量	使用時期	対象病害虫
ルーチンアドスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)〜移植当日	いもち病、白葉枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期〜移植当日	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、(白葉枯病)

※紋枯病の常発地の場合

※対象病害虫の()内は移植3日前〜移植当日のみ登録あり

薬 剤 名	散布量	使用時期	対象病害虫
エバーゴルドワイド箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)〜移植当日	いもち病、白葉枯病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

【本田基本防除】・粉剤、液剤体系

防除時期	出穂始め(随時)※1	穂 揃 期	傾 穂 期
粉 剤	バリダジョーカー粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラフサイドキップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液 剤	バリダジン液剤5 1,000倍 (収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍 (収穫14日前まで)	ラフサイドフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで) + キップフロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤 10 1,000倍 (収穫7日前まで)
対 象 病害虫	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、紋枯病等	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

※1：前年、紋枯病の発生が確認された圃場や、カメムシの常発地域では「出穂始め」の防除を実施する。

除草剤散布は遅れずに

■雑草防除体系 ●5cm程度の水深を確認しましょう。 ●除草剤散布後7日間は落水やかけ流しはしない。

体系処理(初期剤+中期剤または一発処理剤)：雑草の発生が多い圃場

一 発 処 理 (初中期一発剤) 雑草の発生が少ない圃場

初期除草剤の適正使用

⑦代かきから田植えまでの日数を長くしすぎない。

⑧軟弱苗の使用や極端な浅植えを避け、適切な水管理を行う。

⑨薬害軽減のため、初期除草剤マーシェット1キロ粒剤は移植後3日以降の使用とする。

●田植同時除草剤は、移植と同時に施薬するため薬害を受けやすいことから、上記⑦⑧を守り、田植後の入水をゆるやかに行う。

土壌に応じた適正な施肥量

■コシヒカリの基肥施用基準

生育量を確保するために、基肥量はしっかりと施用する。

※側条施肥の場合

土壌区分	肥効調節型肥料 (基肥一発体系)		分 施 体 系 (基肥+穂肥2回)		穂 肥		
	肥料名	施用量 (kg/10a)	肥料名	側条施肥 施用量 (kg/10a)	全層施肥※ 施用量 (kg/10a)	肥料名	施用量 (kg/10a)
砂壤土	LPss コシヒカリ1号	35	BB基肥206 または 燐加安403	32	30	BB穂肥 35号	10 13
				28	25		
壤 土 黒ボク	LPss コシヒカリ2号	30	BB基肥206 または 燐加安403	25	22	10 12	
				22	20		
粘質土	LPss コシヒカリ2号	27	BB基肥206 または 燐加安403	23	20	10 10	
				20	17		

※全層施肥の早期追肥は、田植え7日目にBB基肥206または燐加安403で10kg/10a程度施用する。

◎売れる・求められるカントリーエレベーターのお米が不足しています。低コスト生産にも積極的に利用しましょう。